

高鷲文化財保護協会講演会 たかす鷲見郷物語解説

講師：上村文隆先生（長善寺住職・本協会員）

令和7年8月23日（土）午前10時から約2時間、高鷲町民センターで高鷲文化財保護協会主催の講演会が行われた。講師は長善寺住職で「鷲見氏・鷲見郷一覧」と「たかす・鷲見郷物語」の著者の一人である上村文隆氏が「たかす鷲見郷物語をわかりやすく解説」というテーマで講演をされた。

講演に先立ち高鷲文化財保護協会会長の水上精榮氏が挨拶に立ち、「たかす鷲見郷物語」発刊までの執筆者へのねぎらいと経緯を話し、高鷲財産区と高鷲振興事務所の援助について御礼を述べられた。聴衆は24名であった。



次に、上村文隆氏の講演が始まった。その講演内容は次の通りである。

本作成の理由

熊田郡上市教育長へ「鷲見氏・鷲見郷一覧」を贈呈したときに教育長から「小学校5年生にも分かるようにするといい、新しく要約本を期待する」と言われた。さらに「むずかしいことはやさしく」という言葉からこの本を作成した。

たかすの地名のいわれ

高鷲の地形を大日ヶ岳から鷲ヶ岳・上野高原・ひるがの高原を巡る断面図を国土地理院発行の地形図から作成して説明された。高鷲は明治30年鷲見郷4ヶ村が合併して高鷲村となった。江戸時代は鷲見村、西洞村、中切村、穴洞村、向鷲見村、正ヶ洞村、鮎走村、切立村の8ヶ村を合わせて鷲見郷と言っていた。しかし明治30年の合併時に、村議会で「鷲伝説」から鷲の字を、長良川の上流部にあり美濃国では高いところにあるという意味から「高」という字を付けて「高鷲村」となった。また、断面図から見ると長良川が流れている部分が低く、高度800m～900mの平坦になっているところが上野高原、ひるがの高原であとは2000m～1000m級の高山となったという。



たかすの課題

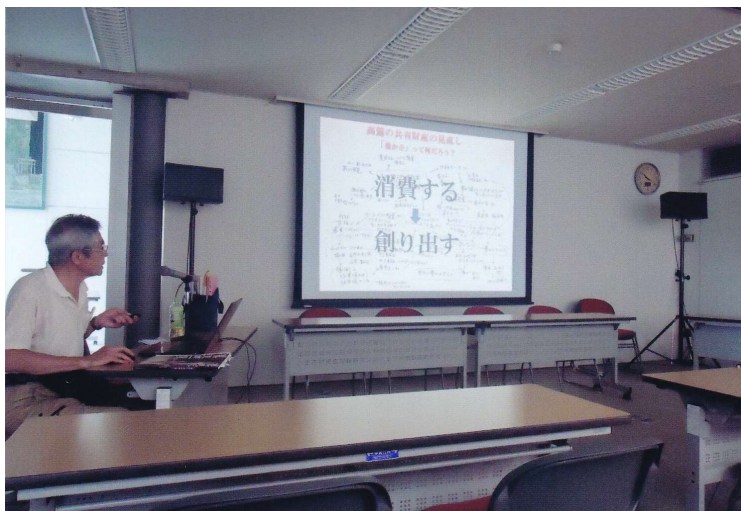
現在、高鷲は過疎化・高齢化・都市への人口流出があり、「若者が戻ってくる」、「帰ってくる」コミュニティ作りが必要であると強調された。

高鷲鎮守の森コミュニティ

京都大学の広井良典先生の理論を元に、高鷲の神社の持つ役割をこころ（信仰）・いのち（環境・自然体系）・くらし（経済）のそれぞれ関係と、それに関わる事項を中心に説明された。

挿絵の説明

「たかす・鷲見郷物語」に掲載されている挿絵は、前会長西脇清美氏の姪の本田奈々さん作図である。中でも苦労されたのが 15 頁の「濃飛の国境の取り決め」で竹の上に乗った鶏をどのように描くかで悩まれたそうだ。そこでモデルに平井道則氏が飼育している「郡上古地鶏」をモデルとしたそうだ。



鷲見氏の活躍と功績・軍忠状

鷲見氏の活躍は 22 頁掲載の図の通りであるが、鷲見忠保と加賀丸の時が京都まで戦ったり、伊勢の阿坂・中村口まで遠征している。また、斎藤道三から蓑を送ったお礼状が鷲見加賀丸に送られてきたことを紹介し、最後の当主、鷲見忠左衛門が遠藤慶隆の家老として、稲葉貞通との八幡城争奪戦の戦い「八幡城の戦い」で、戦死した。それを称えて遠藤常友が愛宕公園内に五人塚を建立した。

郡上の殿様の説明（鷲見城）

鷲見城について林春樹氏の作図した図と赤色立体図を元に説明されたが、皆さんには難しかったようである。また 31 頁の図 1「鷲見城を望むの図」中に堀割という表記があるが、水がないので堀切であると説明された。

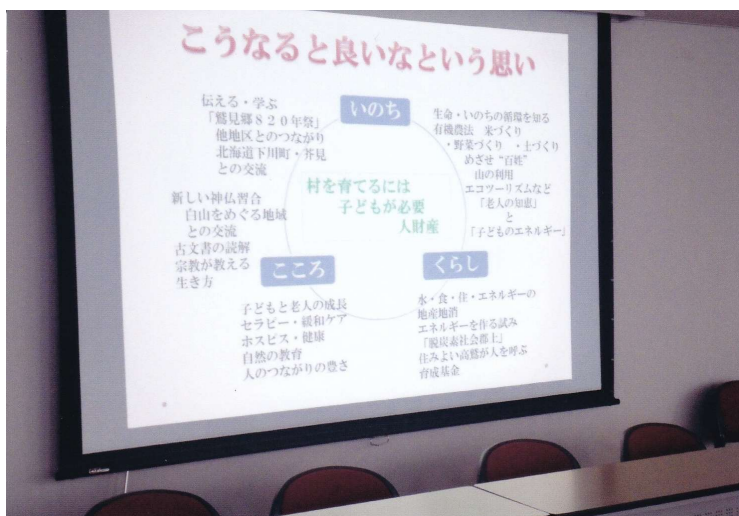
阿千葉城

なぜ鷲見氏が阿千葉城へはいったのか、阿千葉城での鷲見氏が生きぬく場所とした大島の鷲見氏の誕生や、阿千葉城居城時の中津屋の五輪塔の謂われなどが説明された。

鷲見氏の系図

43 頁の系図を元に高鷲の鷲見氏の歴史を説明された。それによると 1 代鷲見頼保から 7 代鷲見忠保まで郡上某と名乗り、また鷲見姓を正式に名乗ったが、9 代加賀丸からは知行地の芥見庄長山から長山某と名乗っていた。

その他、鷲見氏の子孫は鳥取藩や岡山藩、信濃松代藩など日本全国に散らばった。



まとめ

10 分の休憩後、「こうなると良いなという思い」という結論の説明に入った。（上写真）

次回の文化財保護協会講演会お知らせ

日時：令和 7 年 9 月 14 日（日） 9:00~10:30

場所：高鷲町民センター第 3 研修室

講師：曾我謙二郎 氏 演題：「高鷲周辺の城について」（仮題）